

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山県美作高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫 \_\_\_\_\_）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 708-0004

岡山県津山市山北 500

E-mail info@mimasaka.ed.jp

Website http://www.mimasaka.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 344 名 女子 459 名 合計 803 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

本学園は、「一人の自立した人間としての国際的な視点から社会に貢献できる、自由で創造的な人格の育成」を建学の理念に掲げて教育活動に取り組んでいる。これに基づいて、ESDを「生徒にとって未来社会をたくましく生き抜く力を身につけられる有効な教育活動」と捉え、ESDの実践を通じて生徒の主体性、地域愛の育成、自立した青年の育成を目標として活動している。併せて、地域社会と関わり、地域文化の維持向上ならびに福祉の向上の一助となる活動している。

具体的には、①ユネスコ精神醸成と地域に係わる活動、②ユネスコ活動で自らが貢献できる国際支援活動の実践、③地域の文化・歴史・伝統・環境の保全のためのボランティア学習、④国際理解・交流活動 等を行った。

### ① ユネスコ精神醸成と地域に係わる活動

津山ユネスコ協会主催の「わたしの町のたからもの」絵画展（小中学生対象）に協会員と共にその準備・運営に本校ユネスコ部員が携わり、地域にユネスコ精神の普及と絵画制作を通じて小中学生の地域文化等地域愛醸成の一助に貢献でき、高校生自らも地域の文化・歴史へ改めて認識できる活動となった。

- ア)「わたしの町のたからもの」絵画展の企画・運営への主体的参加
- イ) 奥津地域（限界集落）への清掃ボランティア・福祉交流会と運動会・演奏会の実施（ライセンスコース・福祉コース・吹奏楽部、生徒会）

**② ユネスコ活動で自らが貢献できる国際支援活動の実践**

毎年8月初旬の津山市民による納涼祭（ごんご踊り大会）をはじめ、日本ユネスコ協会連盟が提唱している2つの募金活動に取り組んでいる。

- ア)「世界寺子屋運動」募金（英語ユネスコ部）今年度 34,000 円寄付した。
- イ)「書き損じはがき回収」運動（英語ユネスコ部・全校生徒 年間）

**③ 地域の文化・歴史・伝統・環境の保全のためのボランティア学習**

8コースを設置する本校は各コースがユネスコスクールとして地域と係わる活動や交流を展開している。これらの活動を通して「自己有用感・達成感」さらには「課題発見能力の育成」などに取り組んでおり、生徒たちの成長に大きな効果をもたらしている。

- ア) 市内高倉地区協議会の休耕田活用プロジェクト「IM0」を企画・参加
- イ) 美作市上山棚田再生プロジェクト（未来遺産認定）に毎年参加
- ウ) 鏡野町奥津地区敬老会と交流プロジェクト（清掃・福祉・演奏会）など、積極的に取り組んでいる。

**④ 国際理解・国際交流に係わる学習**

ユネスコスクール認定以前から「姉妹校交流活動」を毎年相互訪問交流に取り組んでいる。双方にとって不可欠の学校教育活動の位置を占めている。生徒はホームステイを通して双方の生活・文化・習慣を学び、自己を知る鏡として国際交流の意義を見いだしている。次年度から台湾の旗美高級中学校との姉妹校交流が計画されている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

本校は2012年ユネスコスクール認定以前からコース・学年団・組・部活動を通して、国連ユネスコが数年前から唱えるSDGs 17項目の中で、高校生が係わることができて、自己の成長に係わることができる項目を実践してきた。特に、典型的な中山間地域にある高校として、少子高齢化がもたらす弊害を「地域愛醸成」＝「地域に残って地域を支える人材育成」の観点からESDを推進してきた。

活動内容としては、前述の④国際理解・交流に係わる学習をまず述べる。本校の「国際交流」は23年に亘る姉妹校交流事業があり、第1回の交流体験生徒は現在40才を超えており、長きに亘って相互理解・双方の地域社会でこの事業が認知されている実態がある。この実績から、次年度は台湾の高級中学校（日本の高校に当たる）と姉妹校提携を結ぶことになっている。国際交流がもたらした成果として、半年ごとの交流から生徒どうしが親しくなり卒業後も交流が続いていることが成果といえる。また現地生活体験や相互交流で生徒は国際理解学習を深めている。

次に、②国際支援活動の一環として、英語ユネスコ部が永年続けてきた「世界寺子屋運動」への募金活動があり、「書き損ジロー」回収運動を今年から新たなキャンペーン活動として取り組み、一定の成果を挙げている。また「市民納涼ごんご踊り」での募金活動で集めた3万4千円を日本ユネスコ協会連盟に寄付を行い、生徒は自身ができる国際支援・貢献成果を体感し、自己有用感や達成感を体験できて、人間力向上を向上している。

さらに、③地域社会と高校生の係わりを通して「地域愛の醸成」を目的に取り組んでいるボランティア活動が挙げられる。また、以下の事業を通して生徒は、①ユネスコ精神を体感すると共に地域社会との関わりを深める体験学習で自立した青年へと成長している。

- ①市内高倉地区協議会の休耕田再生プロジェクト「IMO」を企画・参加
- ②美作市上山棚田再生プロジェクト（未来遺産認定）に毎年参加
- ③鏡野町奥津地区敬老会と交流プロジェクト・ボランティア活動
  - ・地区神社と独居老人宅の清掃（ライセンスコース）
  - ・地区敬老会との福祉交流運動会（福祉コース）
  - ・地区敬老会・住民会と交流会・演奏訪問（生徒会・吹奏楽部）
- ④未来遺産認定の英田上山棚田の棚田復元作業（英語ユネスコ・生徒会）
- ⑤城西地区「作州餅」保存会の体験事業に参加（創造コース）
- ⑥地域河川環境保全清掃ボランティア（学年団・英語ユネスコ部）

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(高校生ボランティア活動による地域愛醸成と地域活性化への貢献)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	5. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

①に関連して、

- ア) 「社会福祉基礎」
- イ) 「コミュニケーション技術」
- ウ) 「作州絣」パンフレット
- エ) 英田上山棚田再生プロジェクト (Web)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は100年以上の歴史を有する私立学校であり、創立当初から地域に支えられて設置された学校である。このため学園挙げて、地域との係わりを大切にして地元生徒の育成に貢献している。当然この観点から各コースの教育課程の「総合的な学習の時間」と土曜授業日と期末考査後に組み込んでいる「コース特色授業」で①活動内容で記載のESDに係わる諸行事を展開し、コース設定目標が達成されるよう計画している。

一例として、福祉コースによる過疎地域での福祉交流学習は土曜日授業で、ライセンスコース生徒による地域へのボランティア活動などは期末考査後の半日授業日に取り組み、地域の人たちと交流・貢献活動を展開している。いずれも先方の団体の責任者と連絡調整・教育目的を理解していただいた上での活動実践に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

まず、各コースで検討され、管理職に提出された年間指導計画に基づいて、その目指す教育目標が達成される手法や期日が検討され、承認後に年度当初の「年間指導計画」に盛り込まれ、職員会議で周知徹底を図るようにしている。

校長・教頭自らが「生徒の地域愛醸成」が重要、と認識されており、ユネスコスクール認定時から全職員共通認識を持って活動に臨んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

本校の地域との係わりから生徒自身の成長を図るという観点から、当然それぞれの地域団体の代表者(数名)と本校職員との事前検討会で教育観点を共有し、事業終了後にその目標がどの程度達成され、生徒がどのように成長・変化したかを協議する。(外部評価)

また、生徒には事業終了ごとに反省(振り返り)会を持ち、次回への抱負や課題について話し合っている。(内部評価)

担当教員はコース内での意見・課題を聞き、次回の事業に活かしている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

本校の電光掲示板やコース通信、ホームページ等で活動報告を行っている。今年から取り組んだ津山市との共催「わたしの町のたからもの」絵画展では津山ユネスコ通信にも生徒が準備・運営・受付など積極的に関わったことが取り上げられている。また、この絵画展に作品を応募された小中学生はじめ家族にもその趣旨(絵画制作を通して地域文化・歴史・環境への愛着を図る)も理解され、市長・教育長も絵画展での表彰式に出席され、その意義を理解していただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

本校の英語ユネスコ部は津山ユネスコ協会との連携が深く、ESDの意義についての学習や協働する事業が生まれ、活動と一緒に実践している。地域社会との係わりから「生徒の地域愛醸成」をテーマにしているため、津山ロータリー、英田上山棚田団、津山市、高倉自治協議会、奥津町羽出地区住民会など多くの外部団体と連携して、生徒育成に気持ちよく貢献して下さっている。また山口県の高水高校ユネスコ部と交流活動を4年に亘って取り組んでいる。県内高校ユネスコスクール交流会に参加している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

中国地区のユネスコ協会がユネスコスクールの活動を顕彰する事業を通して、本校は山口県高水高校や野田学園高校の各ユネスコ部と相互交流を行うネットワークを持っている。また次年度から姉妹校提携する予定の台湾の旗美高級中学校との国際交流事業を通して、国際的視野を持った生徒の育成を図る計画がある。

また、東南アジア地域のユネスコスクール高校生の短期受け入れも視野に入れている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

ユネスコスクール活動を通して、ユネスコ部員はもちろんのこと、就職が中心のライセンスコース生徒たちは、この活動を通して地域の方々と触れ合いを深め、作業を通して信頼されるなど「自己有用感・達成感」を体得し、言葉遣い・態度・協調性など著しい成長が見られたことは特筆すべき事柄であった。

地域社会からは「地域に根ざした教育を展開する美作高校」と評価が高く、「地域」をキーワードに今後もこの事業を展開していく。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

全校の特筆すべき内容で述べたように、「地域」をキーワードに本校教育は取り組んできている。

そこで次年度も本年度同様の事業(①活動内容で述べた事業)を展開する計画である。

また、本校には通信制課程も併設されており、この通信制課程で学ぶ生徒の中には人間関係の希薄さや自信の欠如で悩む者もいる。地域の「農業実習作業」を体験させ地域社会の人たちとの交流を通じて、「進んで協力する態度」や「コミュニケーション力の育成」を図るなど、いわゆる「人間力育成」を目指す教育活動となるものと期待している。

この事業は「地域社会の存続」や「持続可能な生産と消費」にも貢献できるものであり、双方がWIN-WINの関係を構築できる事業と捉えている。